

## 斑点米カメムシの防除対策について

### (出穂期前の管理)

- (1) イネ科雑草の穂は、カメムシ類にとって餌場であり産卵場所でもあるので、穂が出る前に畦畔や周辺の除草を徹底し、カメムシ類の密度を抑制する。
- (2) 畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うとカメムシ類を水田に追い込むことになるので、出穂 10 日前までに行う。
- (3) イネ科雑草のみならず、イヌホタルイ等のカヤツリグサ科雑草もアカスジカスミカメの繁殖源になるので、水田内の除草管理も徹底する。

### (出穂期以降の防除対策)

- (4) カメムシ類は、水稻の出穂を契機に水田に侵入する。このため、出穂の早い水田に被害が集中しやすい。早生品種や移植時期の早いほ場では、カメムシ類の侵入や発生に注意する。出穂期以降、水田内でカメムシ類の発生が認められた場合は薬剤防除を行う。  
なお、防除の目安は、乳熟期の水田内（畦畔際）のすくい取り調査（20 回振り）で 2～4 頭である。
- (5) 散布剤による防除は、乳熟期（出穂期の 7～10 日後）を基本とし、その後も発生が見られる場合は 7 日おきに追加防除を行う。  
また、割れ粃はカメムシによる吸汁を助長するので、割れ粃の発生しやすい品種にあつては、出穂 20 日後頃に追加散布する。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数に十分注意する。
- (6) 水面施用剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布し、その後多発が予想される場合は、散布剤により追加防除を行う。
- (7) ミツバチが飼養されている地域で薬剤防除を行う場合は、養蜂業者との連携を密にし、危被害の未然防止に努める。